

リンパ浮腫の治療

-リンパ管静脈吻合手術-

形成外科医 荻部 淳

本年4月から加納岩総合病院・形成外科に勤務しております「荻部 淳」と申します。形成外科は、主に体の表面にある病気の治療を行います。外傷や熱傷、先天奇形や腫瘍による異常や変形を治療したり、失った機能や体の一部を新たに作るなどことができます。

私が専門的に取り組んでいる治療のなかに、「リンパ浮腫の治療」があります。この病気は体内の老廃物を運ぶリンパの流れが何らかの理由で妨げられ、皮膚の下や脂肪のすき間などにリンパ液が溜まり、腕や脚におくみが生じる状態になります。

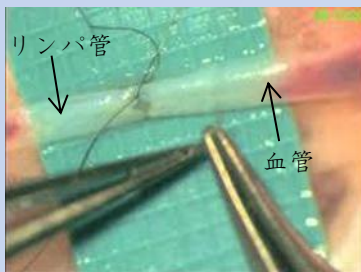
リンパ浮腫には「原発性」と「続発性」があり、同疾病全体に占める「続発性リンパ浮腫」の割合は80～90%とされており「続発性リンパ浮腫」は「がん治療の際のリンパ節切除」などによって起こります。日本国内の患者数は、「原発性リンパ浮腫」では約5,000人程度、「続発性リンパ浮腫」では約12万人程度ですが、現在ではさらに増加しているとみられており、乳がんや子宮がんの手術をきっかけに発症する方が多く、女性が圧倒的に多いのが特徴です。

リンパ浮腫に対する外科療法の主流が「リンパ管静脈吻合手術」という手術で、リンパ浮腫を起こしている部分でリンパ管と静脈をつなぎ合わせて、リンパ液が静脈に流れるようにします。手術時間は4～6時間、入院期間は数日から1週間程度です。手術の翌日から食事ができ、退院時には弾性着衣を着けて徒歩で退院できます。退院後の生活に制限はありません。もちろん、リンパ管と静脈との吻合が完璧であったとしても、リンパがうまく流れなかったり、逆流することもあります。しかし、リンパの通り道が残ってさえいれば「マッサージ」を併用することで十分に効果を上げることができます。また、手術自体が低侵襲でマイナス面がきわめて少ない治療ですので、より効果を高めるために再手術することも可能です。

「リンパ浮腫」でお悩みの方がいらっしゃいましたら、「加納岩総合病院・形成外科」へご相談ください。診察にお越しいただければ手術のご希望なども含めてご相談をお受けいたしますので、よろしく願いいたします。



顕微鏡を使用した手術の様子



顕微鏡で見た縫合の様子



《手術前》



《手術後》

形成外科

	月	火	水	木	金	土
午前 8:30～11:30	—	—	—	荻部 又は 水村	—	—
午後 1:30～3:30	—	—	—	手術	—	—

医師の担当日につきましては、隔週となりますので、お電話にてお問い合わせください。